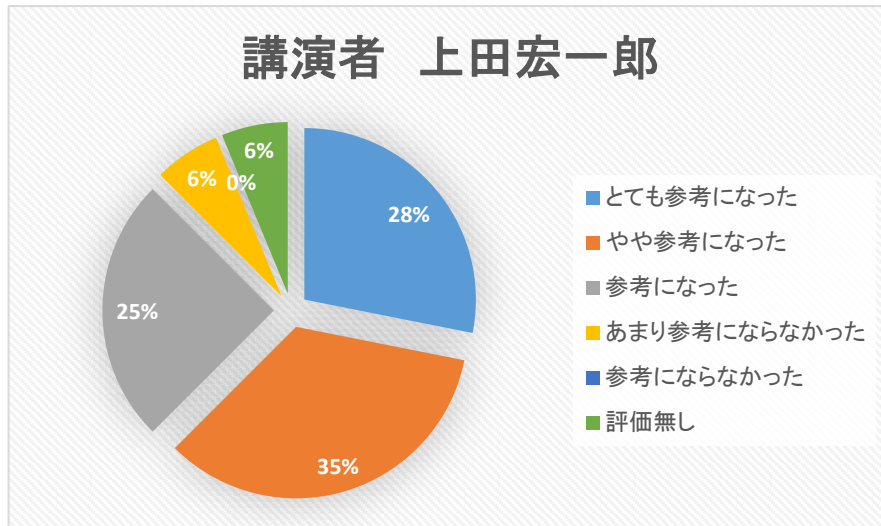
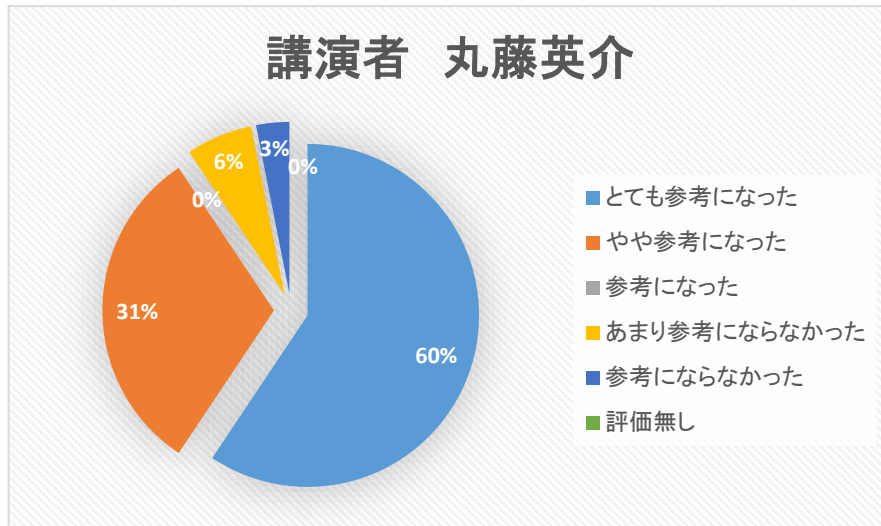


## 講演者 上田宏一郎



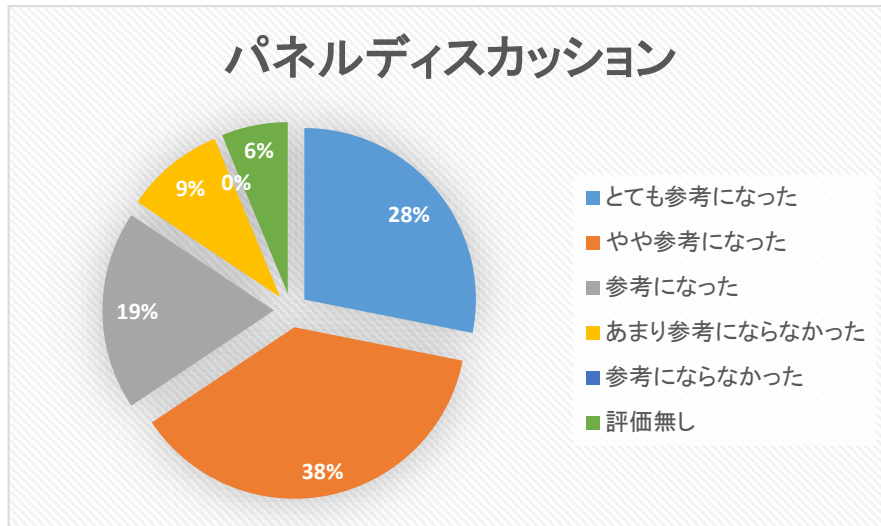
以下、感じたことなどの記載です。

- ロボット、放牧それぞれの導入にあたっての重要なポイントについて改めて考えるとともに、それらがロボットと放牧を共存させる上での、ぶつかる部分が課題としてわかりやすく考える機会になりました。
- タンタンとした話で、良い面も悪い面も話してくださり、良かったです。
- 搾乳ロボットを利用した放牧が、思いのほか課題を持つ内容だと認識するとともに牧草の管理など、基本的な部分を重視しなければならない点など、参考になりました。
- ロボットの利用と放牧の相性の悪さを感じてしまったが、実証された事でより現実の厳しさを理解した。将来的には、ロボットと放牧を組み合わせた営農形態が出てくれると良い。
- 搾乳ロボットと放牧は思った以上に難しいことがよく分かった。
- ロボットの値段が下がる or たくさん食べる でないと収支が合わないということがわかった。
- 放牧を主体にした、ロボット搾乳は現状では厳しいことがわかった。
- 搾乳ロボットと放牧酪農の可能性
- 放牧酪農とロボット搾乳の両立は難しいと認識していたが、一例とはいえ、客観的にデータを見せて頂いたのは勉強になった。農家自身に相当の覚悟がなければ投資にみあう対価を得られずに終わりがねないのでは、と感じた。
- 「搾ロボ+放牧」を15年くらい前に稚内担当時代に経験したが、説明とほぼ同じ結末となった。  
その後、その酪農家は搾ロボを撤去したが、放牧が万能の技術ではないということを知られました。当時のことを思い出させてくれました。
- データとしては様々な手法での組み合わせ例を用意いただき、参考になりました。  
以前、天塩での導入ロボットで誘導は容易に行っていた為、実際は違うということがわかりました。
- 搾乳ロボットという言葉をよく聞くようになってきたので、放牧、フリーストールの我が家にとって利点はあるか勉強になりました。労働力が今後減っていく予定なので、今日のことを参考によく考えたいと思います。
- 考え、考え、考えて、うまく利用していかなければ使えないと思いました。  
ロボットに使われたくないです。
- まだ事例データが揃っていない中で出せる情報を出してもらったのでは、と思う。
- システムを考える事はこれからも大切だと思う。
- 私もクラスターで、ロボット検討しましたが、いくらシュミレーションしても難しいですね。
- ありがとうございます。非常に参考になりました。
- 課題や心配となることを網羅的に整理され、わかりやすかった。



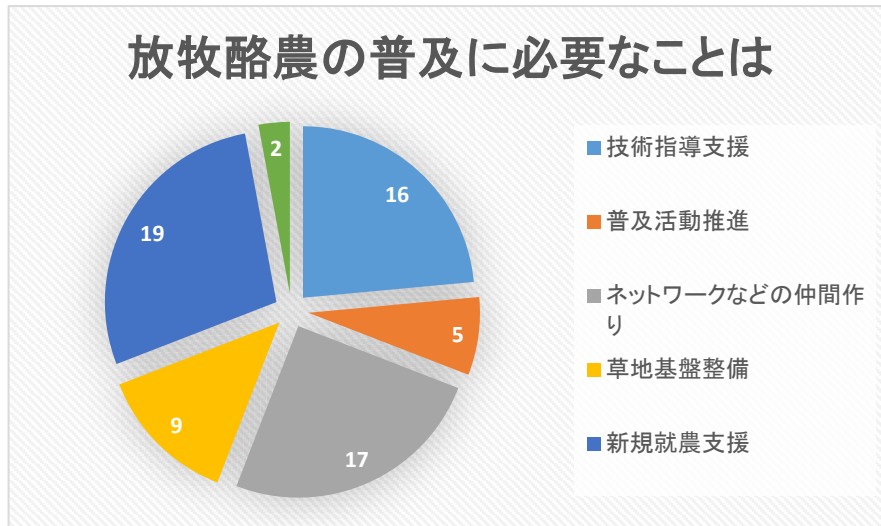
以下、感じたことなどの記載です。

- 放牧の取組内容についてポイントごとに具体的に示していただいて、大変わかりやすかったと思います。  
(専門的なところは行政なので、難しい部分もありましたが、生産者にはよくわかったのではないのでしょうか)
- フリーストール放牧をしたいと考えています。  
今はつなぎのため何から始めたら良いかわかりませんが、本日教えていただいた事を参考に考えていきたいです。
- とてもわかりやすくて良かった。牛にも優しそうですね。
- 泥炭地という性質において、課題に対する形で肥培管理を行っている点、また、具体的な施肥計画と成分の提案は、商系メーカーとしての技術開発に大きく影響し、参考になりました。
- 実際の放牧酪農の仕事の流れや、肥培管理の実例の紹介もされていて非常に理解しやすかった。
- 粘土、泥炭で肥料の効きが違うことがわかった。
- 放牧と自然を最大限に活かした酪農経営
- 条件不利地で試行錯誤しながら放牧酪農を行う例として、興味深かった。
- 放牧を取り入れた経営の経緯がわかり、参考となった。
- 非常に分析、計画的な経営で数年おきに実績などを知りたいところであります。
- 人生目標や酪農ビジョンが自分と合う牧場さんだったので、参考にしたいと思えることが多くあった。  
今は両親がいて4人の労働力だが変わっていくので、搾乳形態、草の管理ともに勉強になった。
- 私向けでした。
- 実例として良かったと思います。
- 放牧の一例として、非常に参考になりました。
- 中川町における具体的な放牧酪農の実証例を聞いてとても参考になった。  
新規就農を志す者にとって、その町での実証例をきくことは、その町での酪農経営などをイメージしやすくなり、新たな担い手を取り込むために有用だと思う。
- すばらしいです。たいへん参考になりました。
- 育成牛、哺育牛にスターター、配合を早くから食べさせたい人が多い中、逆に食べさせないということに驚きました。
- ありがとうございます。経営者としての考えについて、非常に参考になりました。
- 酪農家の方が自ら経営計画を作成されていることに驚いた。  
経営者としてやっていく必要が・・・



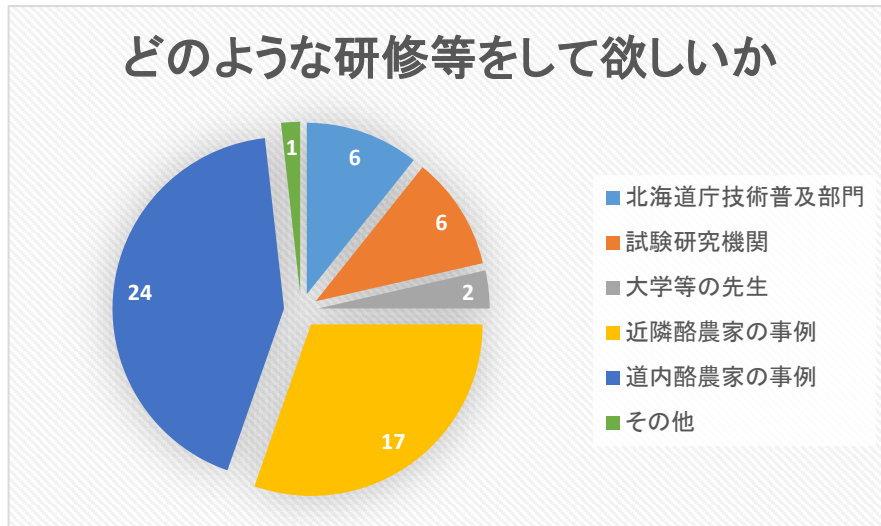
以下、感じたことなどの記載です。

- パネラーの生産者それぞれから他の生産者にギモン、意見をお互い言いあってもよかった。  
なかなかディスカッションの方向性が見えづらかった。
- 私の牛舎も柱が取れたり、牛の大きさに牛床が合っていなかったりと問題が多い農家です。  
何十年先も考え、勉強し、自分と自分の牛に合った形の酪農ができるようにしたいです。
- 大自然の中で牛をのびのびと育てて元気で強い牛を作り上げて行きたい。  
それが北海道の酪農だと思います。
- 道北の酪農家（放牧）の考え  
搾乳ロボットと放牧の組み合わせ
- 話の焦点が定まっていないため、雑談的な感じとなった。  
事前に会場から意見を吸い上げるべきと思う。  
(飼料メーカーとかのセミナーを参考にするといいですよ)
- 酪農家の方は三者三様やり方も考えも完全に異なる方針を持っていて  
充実した交換会とは思いました。
- 丸藤さんの計画力に脱帽です。
- 飼養方法ちがいよかったです。
- 多頭数の可能性を感じた。
- それぞれの経営の仕方、考え方の違いから、自分とはまた違う考えを聞くことができ  
勉強になりました。  
乳量は低いものの健康な牛を低コストでつくれる放牧は素晴らしいと改めて  
思いました。



以下、記載された方々の考えている内容 などの記載です。

- 情報発信
- 昔からの技術が良い、新しい情報を得ない、人の話を聞かない人たちも多いため、ネットはとても良いと思います。
- 技術等も大事だか、生活できるだけの稼ぎが生み出せるのかが重要だと思います。所得面が大事です！！
- 様々な放牧スタイルがあり、自分たちのやりたい形に合わせて、選定することができる。
- 放牧技術を個々の経営にどう取り入れていくのか、ワンオフ（一品物）で考えることが必要。こうやればいいというのは酪農技術ではムリ。技術者に対して、個々の農場で集積した技術を体系化して、現地対応で役立てる。
- ヘルパーの人員不足改善  
酪農の良さを伝える取組
- 新規就農を志す者の多くは、放牧酪農志向の人が多く思うので、積極的な新規就農支援が必要だと思う。また、新規就農者は技術や知識が不足している場合が多いので、それを支援できる技術指導も同時に必要になってくると思う。
- JAさんの放牧への意向もかなりあるため
- テーマを絞って深く追求



以下、聞いてみたい人、取り入れて欲しい内容（テーマ）などの記載です。

- これから牛舎を建設しようとしている人等
- 失敗例や大変だったことを取り上げても面白いと思います。
- 最先端技術の普及  
効率のいい農作業体系
- メーカー：最新またはオススの資材  
誰か：海外の放牧の最前線
- 所得の高い人でかつ放牧を取り入れた経営で、ソートしてみると良いかも。
- 搾乳ロボット（育成・補乳）  
ゆとりある農家例  
効率の良い労働環境例  
工サに頼らず乳量確保
- 放牧においては牛が食べる放牧草作りがとても重要だと思うが、さらに深く考えると、土壌作りが一番大切なことだと思う。  
そのため、土作りを重点においた勉強会を開いてほしい。
- 今回のパネラーの方の経営をもっとくわしく。  
丸藤さんののは非常にためになりました。
- NZ（New Zealand：ニュージーランド）の放牧技術について
- うまく実践している方の声を聞くのが一番為になると思います。  
課題はあっても、提案できても、最終的には経営判断

その他の感想や意見の記載です。

- 勉強になりました。ありがとうございます。
- 年配の方に、もっとこのようなお話をきいてもらいたいです。50～60代。
- 貴重な機会を頂き、ありがとうございました。
- テーマを絞って、深く掘り下げた内容にした方が良いと思う。
- 放牧検討中なので、事例発表はとても参考になった。
- 新規就農時の住宅問題、敷地内のゴミ問題もよく聞きます。
- 放牧のことを真面目に考えていらっしゃる方々の話を聞くことができ、放牧を通しての様々な可能性が、少し見えてきた気がします。  
今までになかった経営のやり方を聞くことができとても良かったです。
- ありがとうございます。  
酪農家の声も直接伺える良い機会になりました。